

吟醸堆肥が大人気 印西市鈴木牧場の取り組み

雪印種苗(株) 東京本部

事業推進課長

西 春 彦

迫るベッドタウン

印西（いんざい）市は、千葉市内から車で北上して1時間ほど、その名の通り印旗沼の西に位置し人口は6万人あまり。

平成8年に市政に移行しましたが、それ以前の印西町の時代には「全国町村人口日本一」を達成して有名になりました。

ここ数年で人口が急増したのは、住宅地が大規模に造成されたためでした。

市の南側には印西牧の原ニュータウン、また隣接して印西よりも数年早く計画が進んだ千葉ニュータウン、これら美しいシルエットの高層マンション群が、田園地帯に忽然として現れます(写真1, 2)。

今回ご紹介する鈴木牧場は、この新興住宅地が目前に迫る場所で酪農を営んでいます。景気低迷の最近はまだしも、鈴木さんが牧場のリニューアルを計画していた時期は住宅造成も真っ盛り、まさに「マンション群が押し寄せてくる」ように感じたと言います。

急速な周囲の住宅化で、これまでのような畑地への糞尿散布が許されなくなる事を予測して、コストをかけても糞尿処理をきちんと解決しなければ経営存続できないと決断、平成8年に公社営業を導入して増頭、牛舎とパーラー施設の更新に合わせて、堆肥発酵機「沃野」を導入し糞尿処理にも本格的に取り組んで来ました。

微生物飼料スノーエックス

鈴木牧場では、堆肥発酵機「沃野」の導入前から、微生物飼料スノーエックスを採用していまし



写真1 目前に広がる牧の原ニュータウン



写真2 隣町の千葉ニュータウンのビル群

た。

成田市での講演会を聞いたのがきっかけでしたが、実際にご自分で糞の変化を観察し、確かに「菌叢が変化している」事を確認して納得したと言います。

鈴木牧場を見学するお客様は、まず第一に牛舎



写真3 屋根のガルバリウム材

の臭気が少ない事に驚かれますが、これは長年のスノーエックス使用と戻し堆肥によって牛舎全体が「有用菌優勢で安定」している事を物語っています。

堆肥発酵機 沃野

巨大な住宅地が隣接する鈴木牧場の環境では、糞尿処理に「臭気」を出すわけには行きません。鈴木さんは、農業開発公社から「今後の都市型酪農には臭気の漏れない密閉型の糞尿処理機械」との指導を受け、ランニングコストの低い沃野を選びました。

堆肥発酵機「沃野」を導入して、戻し堆肥（完熟堆肥をベッドに敷料として使用）を始めてから、環境性の乳房炎の発生もなく、蹄の病気も無いそうです。

ただ、予想していた事とは言え、牛舎通路の除糞と堆肥の投入・切返しには時間がかかり、奥様がパーラーで搾乳する傍らでこれらの作業を一人で行なうには「現状の乳牛80頭が限界」と感じています。

作業機械のサイズ（鈴木牧場では比較的小型のスキッドローダー）もありますが、戻し堆肥をする場合には除糞・切返し作業の労力には注意する必要があるとお聞きました。

低コスト牛舎

人工授精師としてのサラリーマン経験がある鈴木さんは、ご自分の酪農経営を厳密にコスト管理

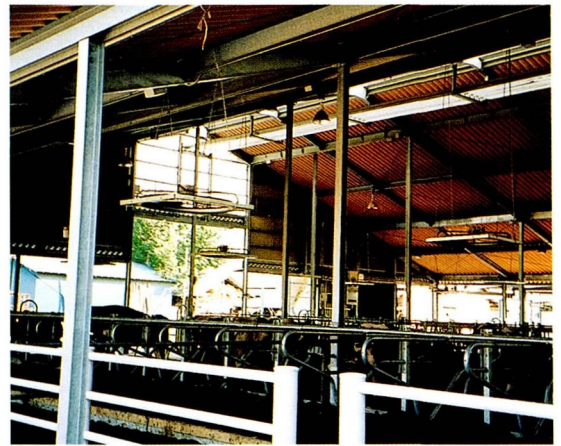


写真4 無駄のない柱で建てられた牛舎



写真5 パーラー横柵は道路用を流用

しています。飼料の購入や食品副産物の有効利用にも、その姿勢がシビアに反映されていますが、新築牛舎の設計にも徹底的にこだわりました。

今後ますます厳しくなる酪農環境を控えて、とにかく「安く建てる」事を目指した結果、「牛舎は3.8万円/㎡ 総額3,800万円」「パーラー舎は7万円/㎡ 1,700万円」で仕上がった（付帯工事を含む）と言います。

低コストを実現するには設計段階で単価を落とすこと、そのためには設計士に自分の意志を伝えるための情報を持っている事が大切です。

鈴木さんは、鉄筋の太さ・コンクリートの厚さ・H鋼材の選択なども自分で勉強して必要最小限を追求しつつ、酪農仲間と議論し、設計士と協議してこの低コスト牛舎を完成させました。

鈴木さんの熱意に打たれて、設計士の工夫も随



写真6 11月に開催された産業まつり

所に見られます。

屋根はガルバリウム材を採用したため、屋根重が軽量化でき、柱（H鋼）を細く設計する事が出来ました（写真3，4）。

牛舎やパーラー舎の横柵は、道路用の既製品を流用しました。

この材料は、大量生産品なのでコストが安く、しかも亜鉛溶融メッキの上に白色の焼付け塗装してあるため耐久性があり、サイズもぴったりでした（写真5）。

現在、鈴木牧場の低コスト牛舎は、周囲の酪農仲間が牛舎設計の参考にするモデル牛舎にもなっています。

「私の知らないところでまで、私の牛舎設計図が出回っている」と鈴木さんは苦笑していました。

堆肥作り

堆肥発酵機「沃野」で一次処理し、十分な切返しをした鈴木牧場の堆肥は、高温発酵期間が長いので、色も黒く、良く腐熟して悪臭の無い堆肥に仕上がりが「森の腐葉土の香り」がします。

まさに「吟醸堆肥」の名前がふさわしい出来栄です。

毎年の「印西市産業まつり」でこの堆肥を即売して好評ですが、これが縁で直接堆肥を買いに来るお客様も増えてきました（写真6，7，8）。

自家用車で鈴木牧場に来て、用意してある袋に詰めて（ちなみに20ℓくらい入って300円）持ち帰る近隣の家庭菜園の人々、毎月トラックで取り



写真7 吟醸堆肥に集まる市民

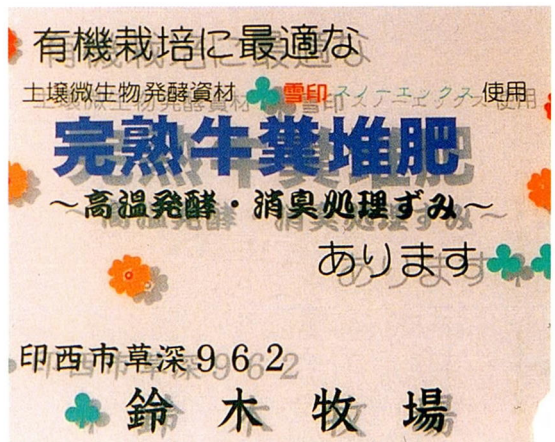


写真8 完熟牛糞堆肥の看板

に来るお巡りさん（ご実家が農家だそうです）、持ち帰ってモミガラと混ぜて自分の堆肥作りの「種菌」として使っている近所の梨農家・苺農家と、お客様は様々です。

今のところ、鈴木さんが「戻し堆肥」として使う以外の堆肥は、順調に販売できているため、特にこれ以上宣伝するつもりも無いと言いますから、糞尿処理に困っている酪農家が聞けばうらやましいお話です。

以上、住宅混在地にあって、地域と共存できる都市型酪農を追求している模範例として、鈴木牧場をご紹介させていただきました。

ますますのご発展を祈念して、ご紹介を終らせていただきます。